

岐阜米穀(株) メールマガジン

今回のテーマは 「買い手が無くなったホルスタインのオス ホクレン根室家畜市場 取引成立 5 割 飼料高騰で買い控え」

全国で酪農が盛んな地域のホクレン根室地区家畜市場で、ホルスタインのオスの取引成立数が5割と低迷している。1頭あたり価格が前年比の2割以下という暴落に加えて、少ない出場頭数でも半分程度しか購入されない状況が、酪農家の窮状に追い打ちをかけている。

安くても売れない・・・

直近のホルオスの取引平均価格は、1万4000円。7万5000円だった昨年同月比のわずか19%だ。最低価格は110円なのだ。原因は民事再生法の適用を手続き中の神明畜産とグループ会社が購入しなくなったことや、飼料代高騰による肥育農家の買い控えがある。

この苦境は安値だけでなく取引成立数の異例の低さなのだ。

14日のせりでは出場した94頭のうち57頭、7日は96頭のうち47頭、8月末は122頭のうち70頭と5割前後。出場数は昨年同月の6割程度と少なく、平年はほぼ購買されているのに「安くても買われない」という異例の事態だ。

初生乳用交雑種(F1)やホルスタイン雌などは価格は低迷してるが、取引は成立している。

売れないで待機中の管理費がずしりと重い

買い手が見つからないホル雄は、出品した本人が引き取るしかない。半数近い農家が子牛を持ち帰らざるを得ない。翌週の市場を待つか、農家が費用を出して処分するなどの対応を余儀なくされる。

JAで異なるが、運搬費や手数料など2000円を超える上場費用が酪農家の負担となる。次の市場に上場するには大気する期間、1日当たり約1000円のミルク代など管理費がさらに必要となる。

ホル雄の価格低迷は全国的な問題だが、成立数の低迷は道内でも特に酪農が盛んな根室管

内で顕著だ。

受精卵移植などに活路を求める酪農家も増えている。ただ50代の酪農家は「受精卵移植も抜本的な解決にならない。この状況がいつまで続くのか展望できない」という。JA関係者は「ホル雄は国産牛肉として販売されるので、これだけ不成立が多いと、数年後に外食やスーパーでの販売に影響が出かねないので酪農家の苦しみを知ってほしい」と訴える。同家畜市場は「副産物とはいえ個体販売が成立しない事態は、生乳の安定供給にも深刻な影響を及ぼす。牧場の清算につながらないよう、JAとしても最善を尽くしたい」と語っている。

(おまけコーナー)

お正月のテレビ番組「ザ！世界仰天ニュース」で、「オートミール」が出ていました。番組なかの仰天チェンジでコーナーでダイエットの成功者など紹介する内容。何度か見かる人気の企画のようです。

番組で登場したのは男性。女子にモテたいと思っている彼は振られっぱなしの人生、と。彼は、仲間の友達に次々に彼女ができる。友人から取り残されダイエットの神が降臨！なんと-31kgのダイエットに成功の体験談。

彼はダイエットに食事を改善。小麦粉の置き換えにオートミールを細かくして使用。たこ焼き、どら焼き、チキン南蛮などがオートミールレシピを考案したと紹介されていました。

気になってネットでカチッと。出演されていた方は星野楓さん。

なんと彼は今では管理栄養士さんになっており、オートミールの料理教室としてTwitterやInstagramなどでも活躍されておりビックリ。自身の経験を生かされたのでしょうか。ダイレクトメールでも送ってみようかな(笑)

星野楓さんのInstagram <https://t.co/BnFL5SW56z>